



地熱発電に関する取組み事例のご紹介

耐熱坑内可視カメラ(BHS)開発

地熱発電で使用する井戸の損傷状況等を精度良く確認！

地熱発電で使用する井戸は深く、高温であることから人の目が届かず、壁面の状況把握が難しいという課題があります。

そこで、右図のように、光ファイバー複合ケーブルに接続した耐熱カメラを、ウィンチを使って井戸内に降下させて、ケーシングの損傷やスケール付着状況の可視化を図っています。

撮影した映像を基に、画像の鮮明化処理やAIによる異常診断を実施することで、井戸内異常状態の早期改善に寄与します。

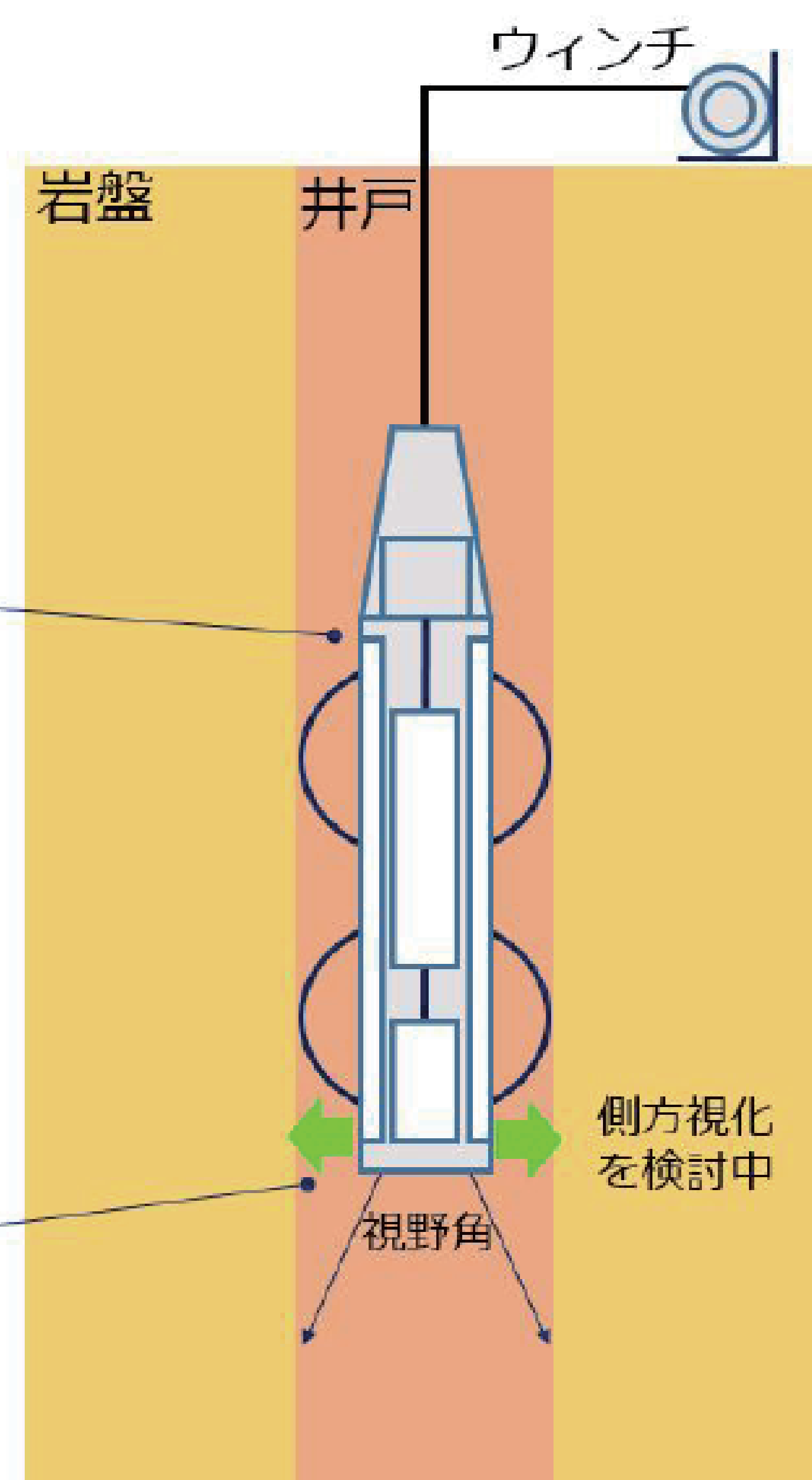
【前方視カメラ外観】

*BHS=ボアホールスキャナ

耐圧容器全体



前面ガラス部



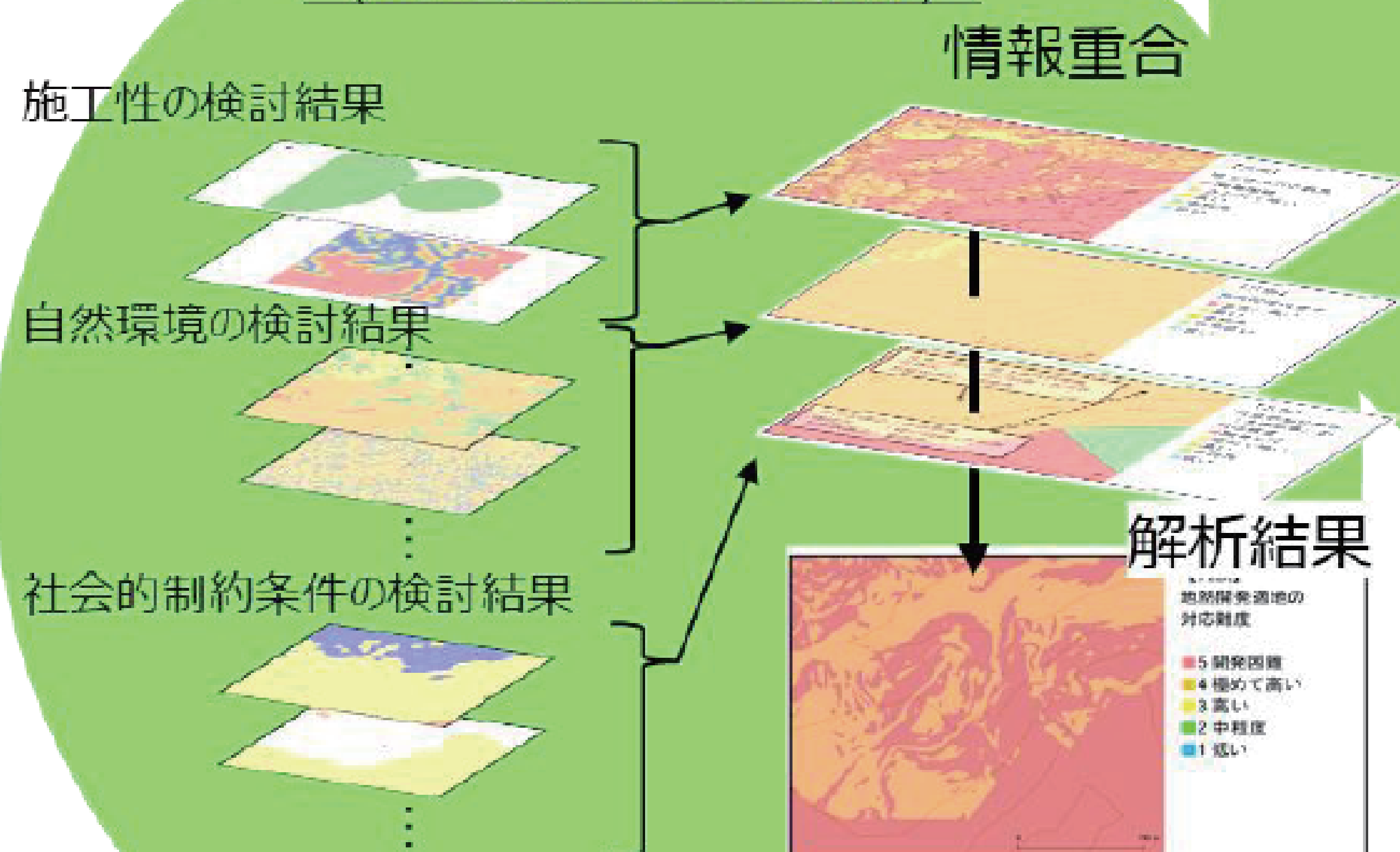
エコロジカル・ランドスケープデザイン手法開発

地熱資源を開発する上で重要となる、「地域との合意形成」に効果的な手法を開発しました。

円滑な地元との合意形成に資する技術開発として、自然環境、風致景観及び公園利用への影響を最小限にとどめるための手法(エコラン手法)を取り入れ、開発計画立案方法の明確化と見える化を行う設計支援セットを開発しました。

地熱開発における優良事例形成に向けた取り組みやステークホルダーとのコミュニケーションの促進、合意形成に貢献します。

① 自然環境・風致景観配慮マニュアル (エコランマニュアル)



② 配慮手法パターン参考集



過去の配慮事例をパターン化し活用

③ 3Dアプリケーション



開発後の景観を3Dアプリで見える化